館報あさひ
No.468 2023.3.17
発行／朝日村公民館　TEL0263-99-2004
https://www.vill.asahi.nagano.jp/

《キャンプ場と朝日村の山々》

鉢盛おろし

うららか

三月に入り厳しい寒さも緩み、朝日村にも春の気配が感じられるようになりました。夜や朝方はまだまだ冷え込みますが、日中はとてもうららかな陽気で気持ちが明るくなりますね。この「うららか」という言葉は日の光がのどかに照っている様子を指し、主として文章に用いられる古風で美的な和語です。漢字では「麗らか」と書き、「うららかな季節」とは、桜の花が咲き始めた頃から、各地で見頃を迎えるまでの春の季節のことを言います。朝日村の桜の開花はもう少し先ですが、厳しい冬が過ぎ、気温や自然の様子から春を感じられる今くらいの季節は「うららかな季節」と言えるのではないでしょうか。また、「うららかな気分」というように、季節に関係なく、心配事の無い明るい心境を指す用法もあります。

昔の人はこの「うららか」を手紙でも季語として使っていたようで、春に手紙を出す場合、「麗日の候～」や「麗春の候～」から手紙を書き始めることが多かったようです。今でも手紙や招待状などで「春光うららかな季節を迎え～」という時候の挨拶からはじめる事はありますね。はじまりの言葉が季節を感じる素敵なものであれば、受け取る方も嬉しくなるのではないでしょうか。基本的に「うららか」は春の言葉ですが、秋の場合は「秋麗」、冬の場合は「冬麗」として使うこともできるそうです。夏だけは「うららか」「麗」という言葉を使うことはありません。やはり夏は暑すぎる事が使われない原因でしょうか？夏は別の言葉を用いて季節や気分を表します。この辺も面白いですね。

この「うららか」の語源ですが、これは「うららか」の意味でもある、人の心や気分を表すところに対応しているものです。「心」は「ウラ」とも読み、その為、良いことに出逢い、晴れやかな心の状態の時を「うららか」と言い、反対に、人事の悪いことに出逢い、気分の悪い時は「羨む（うらやむ）」や「恨めし（うらめし）」などと言います。ちなみに「羨む」とは、【心（ウラ）＋病む（ヤム）】が語源の言葉です。この春の心地良い季節のように、自分の心も病むのではなく、心穏やかに、そして心晴れやかに過ごしていきたいですね。

M・O

「明るい選挙」について考えましょう!! Ⅱ

～義をみてせざるは勇なきなり～

1月号の館報あさひに続き、「明るい選挙」について考えるため、村選挙管理委員会事務局の方にお話しを聞き、かつネットで勉強しました。

憲法によれば、「公務員の究極の使用者は国民です。よって、投票で公務員を選ぶのは国民の権利です。」となります。この〝究極〟という言葉は、取扱注意です。〝究極〟とは〝実際にはありえないこと〟と訳すのが妥当でしょう。それはそうと、「投票で公務員を選ぶのは国民の権利です」は、皆さんも納得するところだと思います。ある調査では、義務と考える方も多いとの調査結果がありますが、権利と考えるのが、妥当だと思います。ですから投票をするかしないかは自由です。

反対に、選挙を開催する側の行政の方々には、開催しなければいけないとの義務があると考えるのが妥当かと思います。

今回は、この義務に向け努力されている方々のお話しをちょっと掲載します。

今年の4月に執行される朝日村長選挙および朝日村議会議員一般選挙は

①予算は約1000万円（すべて朝日村の税金で賄われる。）

選挙に必要な予算は、候補者の選挙運動の公費負担のほか、投開票管理者、投開票立会人の報酬、ポスター掲示場の設置費、投票用紙代、投票者の交通費支援に使われるなど、幅広い範囲に使う予算ですから、苦しいやりくりかもしれません。選挙運営に携わる選挙管理委員の方に払われる「報酬」は、思ったよりも少ないと感じました。もっとも一番重要なのは、お金ではないと考えますが…。

この部屋を使うのは？

②運営に関わる人手は、のべ約100名

かかる人手は、公平、明瞭の観点から、役場の職員の方、公募で手を挙げた住民の方等と、人数をかけて行っています。その方々のスケジューリング、お弁当の手配、「報酬」の支払い、必要な物品調達、投票所の室温管理等々、選挙管理委員および事務局のご苦労は大きかろうと思います。

③事務手続き等にかかる期間は、投票日前後3か月となります。

投票日だけが、選挙ではありません。前後3カ月 働いている人たちがいます。選挙管理委員および事務局の方々です。もっとも、選挙の無い平常時でも活動されているので、ご苦労なことかとお察しします。国の選挙の場合、投票日当日は、深夜2時半までかかることもあるそうです。

4月の選挙に備え選挙関係者の事務は、新年そうそう始まっています。第1回の選挙管理委員会は、1月20日に開催されたそうです。（そして終結するのが、真夏の7月末ごろ。）1票の重みは、関係者の努力に支えられ、投票という形で実を結ぶ。一人一人の権利を守るためにです。

ならば、今回の選挙を話題に、候補者と、それが無理なら近所の方と、パソコンやスマホに向かってでも「未来の朝日村について」議論をかわして花を咲かそうではないですか。そうすると気分が明るくなってきませんか。ベストな候補者がいなければ、ベターな候補者を選ぶのもいいじゃないですか。**特に若い方、未来の朝日村に向かって一票入れようじゃないですか。**

シリーズ おらが村の地元職 ⑩

かみいし商店

小野沢の旧役場庁舎近くの交差点前にあるのが「かみいし商店」です。現店主の上石保之さんで3代目、上石さんの祖父が昭和2年に創業され、もうすぐ100周年を迎える老舗です。オードブルやお弁当をお届けする仕出し屋さんで、村や地区の行事、慶事や法事などでお世話になっている方も多いかと思います。また、朝日小学校やあさひ保育園の給食用に野菜や魚を仕入れて納入されており、朝日村で育ったみんながお世話になっているお店でもあります。

コロナ禍により、村内でも多くの集いの機会が失われ、仕出し料理・弁当という業態上、大きな影響を受けたそうです。ようやくコロナ禍が収まりを見せはじめ、それに伴い注文も戻り始めているそうです。このまま集いの機会が増え、その集いを食で支え続けていただきたいと思います。

オードブルやお刺身の盛り合わせをはじめ、元寿司職人の上石さんが握る「握り寿司」や「海苔巻き」がおすすめだそうです。ニーズやシーンに合わせて柔軟に対応いただけますので、ご家庭や地区のイベント、会合など集いの機会にどうぞご利用ください。

【連絡先】
☎99-2024
【営業時間】
午前8時～午後6時
【定休日】
第1水曜日・第3水曜日（ご要望に応じ対応可）

仕出し料理例

かみいし商店

協同製本工業有限会社

協同製本工業有限会社は、昭和44年（1969年）頃に、現社長立花栄次さんの奥様のご実家が創業し、松本市高宮の貸工場を用いて設立されました。その後平成4年（1992年）に、高宮工場の老朽化により、朝日村に工場を移転され、現在に至っています。

事業内容としては、「地方公共団体用冊子」「劇場用パンフレット」「学校関係の文集」「チラシ」等の製本を手掛けており、「納期と品質」を守り続けて来られました。今では中信地域から多くの発注があり、南信地域からも発注があるそうです。

本社は松本市にあるそうですが、社長の立花さんは、殆ど朝日村工場で忙しく働いておられるそうです。また、立花さんは、長野県製本工業組合の副理事長をされており、長野県内の製本会社が50社ぐらいから20社程度に減少してきた現状もお話されていました。

取材をとおして、今後も「納期と品質」を守り、製本の仕事を続けていかれる職人気質を感じました。

【連絡先】
協同製本工業㈲
☎99-3740
FAX99-3736

製本ライン

協同製本工業㈲

熊久保だより

～朝日美術館・民俗資料館発行～

令和４年度 展覧会報告（続）

12月10日～12月25日 R４ベストセレクション

ｗｉｔｈコロナ、ウクライナ侵攻など世の中が大きく変化する今、「再生」「日常の喜び」をテーマに学芸員が収蔵品から55点を選び展示しました。

あわせて令和４年度新収蔵作品もご紹介しました。

R4ベストセレクションの会場風景

2月11日～2月26日 あさひっこ展

鑑賞学習にきたあさひっこ

二年振りの開催です。1年生はブクブクっと絵の具に泡を立てて描いた「バブルアート」。2年生はみんなでお世話をしている羊との仲良しな時間を表現した紙粘土作品「ほわちゃんと♪」。3年生は色紙やビニールなどで作った「カラフルフレンド」や俳句をイメージ画にした「ことばから形・色」、写真で表現した「み近なしぜんの形・色」。4年生は自分の顔を力強い版画にした「がんばって彫ったよ 4年1組のなかまたち」。5年生は黒や茶色で塗りつぶした画面に消しゴムで「消して描く」という難しい課題にチャレンジしました。

アイデアに感心させられ、思わず笑顔になりました。

令和５年度 展覧会のご案内

4月8日～5月14日 朝日村つくりびと展

朝日村内でものづくりをしている作家たち14名による作品展です。本展は不定期ながら継続的に開催してきました。前回から5年経過し、朝日村でものづくりに携わる人々は徐々に増えています。

工夫をこらし、楽しみながら、使う人、飾る人を思って創られた一品一品が、作家の気持ちとともに輝いています。今回は、昨年20周年を迎えた朝日美術館・30周年を迎えた民俗資料館とコラボして、出品作家たちが選んだイチオシの収蔵品も併せて展示します。

会期中にはワークショップも開催します。作品に対する思いや制作技法などの話を交え、作家たちと交流してみてください。

朝日村つくりびと展ポスター

5月20日～6月25日 中谷聡（なかやさとし）展 時のカプセル

《時のカプセル》　2011年

《時のカプセル》　2009年

中谷聡さんは、愛知県立芸術大学教授で彫刻の指導をしています。石彫を専門とし、モニュメントとして屋外に設置する大型作品を制作してきました。テーマにしている「時のカプセル」とは、巨大な石の塊を切断し、中をくりぬいて元どおりに重ねる、カプセルのような構造になっている作品のシリーズです。

一見したところ、中が空洞になっているようには見えません。無機質にも見える外観の内側に別の時間や空間を包み込んでいるようで想像がふくらみます。

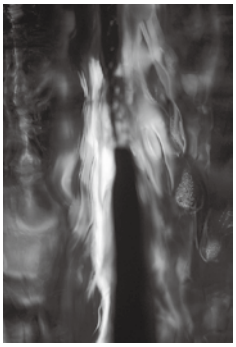
7月7日～8月27日 塩島千典（しおじまちふみ）写真展

闇に浮かぶ幻想的なツユクサ

塩島千典さんは、ジャンルにこだわらず多彩な表現に挑戦を続けている白馬村在住の芸術家です。

ユニークな造形作品を多数制作していますが、今回は写真作品にしぼって展示します。踊る舞踏家の一瞬をとら

え、新聞紙にプリントした作品、身近な野の花たちを自然の中で幻想的に写した作品、これまでの写真の概念を覆す作品づくりが他と一線を画しています。被写体が何なのかを示さない抽象的な作品シリーズは、光と影が織りなす不思議なバリエーションに魅了されます。


被写体を伏せた作品

臨時休館8月28日～10月6日

考古資料展示室の展示入替のため全館完全休館となります。新たに氏神遺跡の出土品を展示する予定です。

10月7日～11月26日 濱田卓二展 土たちの詩話

彫刻家・濱田卓二さんは、「○△□」をテーマに、土を焼き上げて作品を制作しています。焼き物の技術は独学で学んだという濱田さんの作品には、森の中、河原、都市空間、子どものおもちゃ箱など、どこに置いても溶け込める自由さがあります。土の色や質感を楽しみ、戯れながら形づくられるところは、縄文土器を連想させます。

《○△□》 2022年

《○△□−breath−》 2021年

太古の人々が理屈でなく、感じたままに形づくった縄文土器は、器であるにもかかわらず器という概念がありません。

そんな縄文土器に触発され、かつては縄文土器が豊富に作られていた朝日村の土を使い、新作を発表します。

12月8日～12月28日 R5ベストセレクション展

収蔵作品よりご紹介します。

◉土偶の愛称決定のお知らせ

朝日村山鳥場遺跡から出土した土偶2点の「おなまえ」が「朝日土偶おなまえ選手権」にて決定しました。

土偶それぞれに村内外から約250件の応募があり、朝日小学校児童のみなさんにも投票していただいた結果、票数が一番多かったのが「とりばっち」、「くるっち。」です。

「とりばっち」は安曇野市の小学一年生上條稜哉くん、「くるっち。」は山梨県の藤本美和さんが考えました。お二人と候補に挙がった13名には美術館より表彰式にて記念品をお渡ししました。

土偶の名前は「とりばっち」(左)と「くるっち。」

民俗資料館のお宝拝見⑩

氏神遺跡 北陸系土器片

氏神遺跡は令和2年に発掘調査が行われ、縄文時代遺物は土器片だけでも一万点以上出土しました。

縄文中期初頭を主に在地系のみならず、広汎地域との交流があったことを示す土器・石器が出土しています。

注目は北陸系朝日下層式土器です。奇しくも「朝日」と付く型式土器です。

朝日下層式土器とは「北陸地域を中心に分布する縄文時代前期末の土器型式である。氷見市に所在する国指定史跡朝日貝塚の下層出土資料を指標として設定されたものである。特徴は小円貼付文や刻みを有する浮線文」とあります。

ご紹介する土器片は、その特徴が見て取れます。小さな円形文がいくつも連なり、細い粘土紐を貼り付けた線文がまるで「そうめん」のようです。「ソーメン貼り」との異名を持つ由来です。

「朝日」という型式が気になり調べ始めると、この土器片と大変よく似た資料を発見しました。氷見市立博物館へ問いあわせたところ、やはり「朝日下層式」であり文様も似ているとの回答をいただきました。

朝日村から氷見市まで110㎞超。小さな欠片から縄文時代の交易がひも解かれ、令和のいま朝日美術館と氷見市立博物館がつながった瞬間です。

(引用文献：大野究『縄文土器の制作技法～朝日下層式土器を題材として～』)

小さな円形やそうめんのような文様

窓口情報

※本人の了承を得て掲載しています。

おくやみ

地区名	氏名	年齢	世帯主
下　組	清水今朝成	92	清水　礼子
中　通	高橋　由人	90	高橋　満次
新田下	高山　好子	98	高山　義教
原新田	北村　美恵	88	本　　人
下古見	上條　菊子	88	上條　啓治

朝日村長寿を祝う会
5月14日(日)

長寿を祝う会の対象となる方は今年から75歳以上（昭和23年生れ）の皆様に記念品をお届けします。

どうぞよろしく

《退任者》3年の任期を迎えた3名の館報編集員が交代しました。

清沢　光寿（本郷）
清澤　英樹（中通）
中田　智士（向陽台）

3年間お疲れさまでした。

《新編集員》これからよろしくお願いします。

清澤　健彦（新田上）

曽根　優一（下組）

上垣外和意（下洗馬）

お台所エッセイ ⑮④

上條（かみじょう）みゆき（南上）

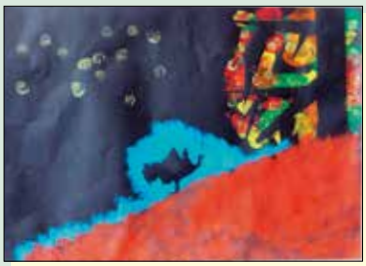
車庫入り娘

我が家には車庫入り娘がいます。名前はフィガロ、年齢は32才、当時ニッサンが遊び心で発売した三代目の限定車です。オープンカーにもなる2ドアクーペで、白の本革シート、個性的なインテリア、愛らしい丸いライト、まるで外車のようなおしゃれな車に一目ぼれをして手に入れた私の愛車です。購入してすぐの出来事です。買い物から戻るとびっくりしました。氷入りのアイスコーヒーがオープンにした屋根から放り込まれていたのです。室内はコーヒーが飛び散っていました。そして、横浜に遊びに行った時には駐車場で助手席の窓ガラスが割られていました。私の愛車は、抽選販売などで人もうらやむ目立つ存在だったせいか、心ない人からいじめにあってしまいました。

その後、この朝日村に私と一緒に嫁入りしました。しかし子供が産まれると使い勝手の悪さから普段使いは軽自動車になり、フィガロの車庫生活が始まりました。そして、年間で1回から2回程度車庫から出して走らせるような時期が20年近く続きました。そして、フィガロにも久しぶりの出番がきました。成長した息子が免許をとり、通学で乗ることになりました。その後、息子は社会人となり、マイカーを購入すると、次の転機が訪れました。主人がフィガロを大好きな人の集まりであるオーナーズクラブに入りました。毎年、数回あるミーティングにお出かけです。仲間と出会い、素晴らしい景色の中を何台も並んで走る姿はとても嬉しそうです。気が付けば32才と高齢になってしまいましたが、車庫入り娘の期間が長かったせいか、今でも元気に走ります。娘もこの車に乗るのかな。

フィガロは、嫁には出せないので家族の一員として老後も共に元気で楽しく健康でいけたら、お互いに幸せな人生ですね。まだまだ一緒に走りましょう。

みんなのアトリエ



朝日小学校３年１組
高橋（たかはし）　浬一（りいち）さん
ステンシル版画「山をおりている豆太」（「モチモチの木」より）」
モチモチの木がキラキラ光るように、いっぱいのラメを付けました。

朝日小学校４年１組
齊藤（さいとう）　果歩（かほ）さん
木版画「まどを見ている自分」
メガネまで版画に入れたのはわたしだけだったので、できるだけきれいに彫りました。

朝日小学校　５年１組
岩下（いわした）　桜寧（おうね）さん
木版画「私も行きたかったな。」
宿泊学習に行けなかった思いを込めて作りました。服の細い線がきれいに出るように、がんばって彫りました。

■館報あさひ　令和5年3月17日　■発行　朝日村公民館　■編集　館報編集委員会　■責任者　公民館長　清澤　正文　■長野県東筑摩郡朝日村古見1286番地　■印刷所　川越印刷株式会社